

港区立御成門中学校
平成30年度 授業改善推進プラン

教育目標

- 豊かな心とたくましい体をもつ生徒を育てる
- 他人の立場を尊重し仲良く協力できる生徒を育てる
- 自ら計画し進んで学習する生徒を育てる

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

- ☆「知識・技能」の習得：小中連携を基盤とした学習指導及び授業規律の充実を図る。
- ☆「思考力・判断力・表現力等」の育成：「発表・表現活動指導」と「聞き方指導」の工夫をする。
- ☆「学びに向かう力、人間性等」の涵養：全ての学習の基礎として生まれ活用される「言語活用能力」と「情報活用能力」を向上させる学習活動を推進する。

昨年度の成果と課題

- 【成果】・諸処の学力調査の結果から基礎的・基本的な学力は概ね定着している。
・各教科で実施している発表活動の成果として、生徒が授業へ能動的に関わる姿勢が見られるようになった。
- 【課題】・ICT機器の効果的な活用について指導方法の工夫改善。
・御成門アカデミー内のスムーズな連携・実施。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○土曜授業の有効活用 ○御成門アカデミーのカリキュラムが円滑に実施できるように小・中学校で時程や時間割を調整する。 ☆新学習指導要領に示された教育課程への対応 ☆週案を活用した計画的・意図的な授業の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた指導の充実を図る。 (指導方法・指導内容・指導形態の工夫改善、教材教具の工夫、教科部会の実施) ○学力調査(国都区)結果等の課題分析をし、具体的な改善策を実施し、授業改善を目指す。 ○言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。 ▲ICTを活用した授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導内容の系統化・スパイラル化・厳選化と単元のまとまりに応じた指導内容の充実を図った年間指導計画の作成と実施、評価を行う。 ○思考・判断・表現を一連のものとした評価の観点として捉え、改訂された評価観点に基づく評価を行う。 ☆生徒の学ぶ意欲・学習改善に繋がる評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック・パラリンピック教育・国際理解教育に重点を置き、教育活動を工夫する。 ▲御成門アカデミーの積極的な活用 ○救命救急研修 ・慈恵医科大との連携 ☆「特別の教科 道徳」の完全実施に向けての研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人材開発と人材活用を図り、教科・領域・総合的な学習の時間の充実を図る。 ○家庭学習の習慣化のための家庭との協働による健全育成を図る。 ○学校ホームページを活用し、教育活動を発信する。 ☆生徒による防災ジュニアチームを組織し、活動する。
具体的な取組				
<ul style="list-style-type: none"> ○土曜授業による授業時数の確保 ☆管理職・教務主任による情報交換 ○年2回の学校評価の実施による、教育課程進捗状況調査と改善策の作成 ○行事運営の見直しと改善 ☆定期的な実施時数調査と調整 	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職による授業観察(年3回) ○少人数習熟度授業(数学・英語)の実施 ○英検・漢検・数検校内実施(土曜会場) ○生徒による授業意識調査・教員評価 ○補充教室の実施 ☆ICTを使用した授業の計画的実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価・評定の基準・規準に関する共通理解 ○評価に関する保護者説明会の実施 ☆通知表のフォーム改善 ☆新教育課程内容についての周知徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ☆日本の伝統文化・伝統芸能の体験的学習 ○オリンピック・パラリンピアン講演会やスポーツ教室の実施 ○年2回小中合同研修会での研究授業・研究協議の実施 ☆がん教育・AED教育の実施 ☆道徳の教科化に向けて授業形態・評価方法等の研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○「身近な街のコンサート」「自然農園体験」「防災活動」等への生徒参加 ○「児童の合唱コンクール参加」「生徒による学習支援」など児童・生徒の活発な交流 ○学生ボランティアによる放課後チューターの活用 ☆小中合同避難訓練の実施